



春季火災予防運動 (3月1日(水)～同7日(火))

住宅火災 いのちを守る 10のポイント

▶ 4つの習慣

- ①寝たばこは、絶対にしない、させない。
- ②ストーブの周りに燃えやすいものを置かない。
- ③こんろを使うときは火のそばを離れない。
- ④コンセントはほこりを清掃し、不必要なプラグは抜く。

▶ 6つの対策

- ①火災の発生を防ぐために、ストーブやこんろなどは安全装置の付いた機器を使用する。
- ②火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する。
- ③火災の拡大を防ぐために、部屋を整理整頓し、寝具、衣類およびカーテンは防災品を使用する。
- ④火災を小さいうちに消すために、消火器などを設置し、使い方を確認しておく。
- ⑤お年寄りや体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保し、備えておく。
- ⑥防火防災訓練への参加、戸別訪問などにより、地域ぐるみの防火対策を行う。

2022年度全国統一防火標語 (2022年3月22日発表)

「お出かけは マスク戸締り 火の用心」

全国山火事予防運動

春は、空気が乾燥し、枯葉や枯草も多いため、山火事発生の危険性が高くなります。山火事を防ぐため、枯草などのある場所や、強風時・乾燥時には、たき火をしないでください。たばこの吸殻は必ず消すとともに、投げ捨てはしないでください。

令和4年中 火災・救助・救急事案の発生状況

※ () 内は令和3年中

消防本部警防課 ☎22-0337 FAX 22-9427

火災		救助		救急	
火災件数	40件 (38件)	出場件数	47件 (53件)	出場件数	6,537件 (5,654件)
建物火災	24件 (19件)	火災	2件	急病	4,671件
林野火災	0件 (2件)	交通事故	23件	一般負傷	955件
車両火災	4件 (1件)	風水害	0件	交通事故	416件
その他	12件 (16件)	水難事故	6件	その他	351件
死者	3人 (2人)	その他	16件		

※主な出火原因～多い順～
 令和4年：こんろ、たき火、放火、火遊び
 令和3年：たばこ、たき火、放火の疑い、こんろ

チケット情報

ひこね市文化プラザ

4月29日(土・祝) 14:00 グランドホール **小学生以上**

ひこね市長大学特別講座 **やましたひでこ講演会** **託児あり(有料・要予約)**

「断捨離で日々はごきげんに生きる知恵」

指定【発売中】 一般1,500円、友の会1,200円

BS朝日「ウチ、断捨離しました!」でおなじみ、断捨離の提唱者である、やましたひでこによる講演会。自分とモノの関係を問い直し、暮らし・自分・人生を整えませんか?



6月3日(土) 14:30 グランドホール

HIMARI 吉田恭子 親子Duoコンサート **小学生以上**

指定【3月11日(土) 9:00～予約開始】 **託児あり(有料・要予約)**

友の会4,000円、高校生以下2,000円

【3月18日(土) 9:00～予約開始】

一般4,500円、高校生以下2,000円

今、世界が注目する11歳の天才ヴァイオリニストのHIMARIとその母親であり、テレビやラジオ等の出演も多岐にわたる日本のトップヴァイオリニスト吉田恭子によるデュオコンサートを開催!



申込・お問い合わせ先 チケットセンター ☎27-5200 (9:00～19:00)
チケットはインターネットでもご購入いただけます。https://bunpla.jp/

3月の休館日：6日(月)、13日(月)、20日(月)、27日(月)

【ひこね市文化プラザ各公演 発売初日の予約の取扱い】
※電話予約・インターネット予約のみの受付となります。
※窓口でのチケット引き取り・販売は翌開館日から承ります。

【ひこね市文化プラザ・みずほ文化センターでは、次の感染症対策を実施しています】▶館内設備の定期消毒 ▶手指消毒液の設置 ▶飛沫飛散防止カーテンの設置 ▶非接触型体温計の常備 ▶新型コロナウイルス感染拡大防止システム「もしサボ滋賢」の表示の設置

みずほ文化センター

3月11日(土) 14:00 多目的ホール

石原詢子コンサート 2023

指定【発売中】 **～今あなたに届けたい～**

前売:3,000円 当日:3,500円

デビュー35周年・芸道生活50年を迎え、名実ともにますます充実した活動を続ける「石原詢子」の魅力あふれるコンサート。



小学生以上 託児あり(有料・要予約)

3月4日(土) 14:00 多目的ホール

彦根亭 みずほ寄席 vol.47

<出演>笑福亭松五、笑福亭呂好、ふじいもやし、ブルーウェーブ

自由【発売中】

前売:500円 当日:600円

小学生以上 託児あり(有料・要予約)



申込・お問い合わせ先 みずほ文化センター ☎43-8111 (9:00～17:00)

3月の休館日：7日(火)、14日(火)、22日(火)、28日(火)

◎表記の価格は全て税込価格です。
◎入場制限のある公演は、託児サービスを実施します。
子ども1人1,000円。各ホールまで事前予約が必要です。



特別公開

3月13日(月)まで

「雛と雛道具」

井伊家13代直弼の愛娘弥千代(1846～1927)の大揃いの雛道具を、地元の家に伝来した古今雛や御殿飾りなどとともに一挙公開。春の訪れを告げる恒例の展示です。

テーマ展

3月17日(金)～4月17日(月)

「大名の装い—井伊家伝来装束を中心に—」

身分や立場によって服装が定められていた江戸時代、一国の統治者である大名も、参加する儀礼や行事、格式に応じて、身につける装束が決められていました。東帯や袴(かみしも)などの礼装を中心に、大名の装いを紹介します。



▲緋色塗鞘大小拵・小ざ刀拵
ろいろぬりさやだいしょうこしらえ
・ちいさがたなこしらえ

■スライドトーク

【日時】3月18日(土)14:00～(30分程度)

【解説】当館学芸員 【場所】講堂 ※無料(観覧料は別途必要)

※当日受付(先着50人、受付は13:30～)

彦根藩史料調査研究会

「殿様の外出—井伊家10代当主直幸による鷹狩りと寺社参詣を中心に—」

当館では「殿様の日常生活」の解明に向け、共同研究を進めています。今年度の公開研究会のテーマは、井伊家10代当主直幸(なおひで)が行った鷹狩りや寺社参詣などの外出です。殿様の外出はどのようなものだったのか、誰がそれを支えたのかを、外出の道筋なども含めて具体的に紹介します。

【日時】3月26日(日)13:00～16:30

【場所】能舞台正面見所 【受講料】500円

【定員】60人(当日先着順、受付は12:30～)

【報告者】並木昌史氏(徳川美術館学芸員)

竹内光久・北野智也(当館学芸員)

■【休館日のお知らせ】3月14日(火)～同16日(木)

■3月13日(月)までの期間および17日(金)は施設整備のため一部休室します。

儀礼や行事に忘れて御召し替え—藩主の装束—

とまきの玉手箱

博物館からのメッセージ

現在、彦根城博物館が所蔵する井伊家伝来資料には、彦根藩の藩主やその子弟に関わる装束はごく僅かしか残されていません。藩主がどのような装束を用いていたのかを、数少ない作品から知ることは困難ですが、関連する古文書を紐解くことで、それをつかぎあうことができます。

「小納戸役日記」(彦根藩井伊家文書)は、主に藩主が使う道具の管理を担当した役職、小納戸の職務日誌。この日誌には、藩主の行動と共に、着用した装束や刀などが記されています。一例として、10代直幸(1731～1789)が彦根在国中の、明和8年(1771)2月8日の記事を見てみましょう。

この日は、藩主と家臣全員とが対面する惣出仕の日です。そのため、直幸は朝、藩主の居室である御殿の奥向きから政務を執る表向きへ出ると、白の綿入りの襦袢、下召(下着)に黒の小袖、裏地付きの袴に召し替え(着替えて、家臣と対面しました。ここで登場する袴とは、同じ生地で作られた肩衣と袴のセットで、江戸時代の武士の平服でした。写真は、彦根藩士に家伝来した橋紋付の袴で、井伊家からの拝領品とみら



▲黒地橋紋付袴(個人蔵)

れ、藩主が用いた袴は、おそらくこのようなものだったと考えられます。惣出仕が済むと、腰部分にのみ文様を表した熨斗目という小袖と、肩衣と丈の長い袴のセットである長袴に着替え、井伊家の菩提寺・清涼寺に参詣しました。この日が、養父・8代直定が亡くなった日(祥月命日)にあたるためです。直幸は毎月、実父・7代直惟、養父・直定、2代直孝の月命日に清涼寺へ参詣しており、この時には平服の袴が用いられていました。しかし、祥月命日の参詣は、2月8日のように熨斗目と長袴で行っています。この装束は、幕府の儀礼でも使用される礼装であることを踏まえると、重要な日には、平服よりもフォーマルな格の高い装束が選ばれていたといえるでしょう。

そして参詣が済み、御殿に戻ると、礼装から日常着に着替え、昼すぎに奥に入りました。このように、藩主は、儀礼や行事の内容と重要度に応じて装束を使い分け、時には、日に複数回の召し替えを行っていました。「小納戸役日記」には、藩主の装束だけに留まらず、日々のさまざまな事が記されています。他の古文書と共に読み解くことで、藩主の日常生活の解明に繋がる貴重な資料といえるでしょう。【彦根城博物館学芸員 茨木恵美】

写真の作品は、テーマ展「大名の装い—井伊家伝来装束を中心に—」で、3月17日(金)～4月17日(月)の期間、展示します。